

道徳の時間学習指導案

1 日 時 平成28年7月6日(水) 第4校時

2 学 年 第4学年 33名

3 主題名 「本当の友達」 内容項目 2-(3) 友情, 信頼
【特別の教科 道徳編 B-(9) 友情, 信頼】

4 ねらい 事実を友達に伝えるか伝えないかを考えることを通して, どちらの行動にも相手のことを大切に思う気持ちがあることに気付き, 友達と互いに信頼し合い, ときには注意し合いながら, 友情を深めようとするのできる判断力を培う。

5 資料名 「大きな絵はがき」(出典 東京書籍 一部改作)

6 主題設定の理由

○ 本主題は, 学習指導要領第3学年及び第4学年の指導内容2-(3)「友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合う。」をもとに設定した。友達は家族以外で特に深いかわりをもつ存在であり, 友情関係は共に学んだり遊んだりすることを通して, 互いに影響し合って構築されるものである。自我に目覚め, 自分と他人を意識し, 自分との違いや似ていることに気付くことができる中学年のこの時期に, 信頼や友情について深く考えることは, 高学年に向かう児童にとって, 非常に大切な時間であるとする。

本資料は, 主人公の広子のもとへ転校した友達から大きな絵はがきが届き, 不足料金が生じたことから始まる。兄の「事実を言ったほうがよい」という意見と母の「お礼だけ言ったらよい」という意見を聞いて広子は悩む。料金が不足していることを相手に伝えるか伝えないかを考えることを通して, 友達だからこそ, どうすればいいのか思い悩む広子の気持ちに気付き, 友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合っていこうとする心情を養うのに適した資料である。

○ 本学級の児童は, 行事や体験活動を通して, 友達とかわることや協力することのよさを感じ, それらを肯定的に表現することができる。また, 友達が輝いている姿や成長を進んで見つけようとする児童も増えつつある。しかし, 相手の気持ちを考えることや自分の思いを言葉で分かりやすく伝えることが十分にできないため, すれちがいやトラブルが起こることも多い。

また, 友達に関する事前アンケートでの「友達とはどんな人か」に対する回答では, 「一緒に遊んでくれる」「困っていたときに助けてくれる」「優しくしてくれる」等の受動的な関係を意識しているものや行爲的な出来事を書いている児童が多かった。

これらから, 「相手のことを信頼して自分から何らかの行動を起こすことによって, さらに友情を深めていく」という意識は高くないと言える。

○ 指導に当たっては, 「友情, 信頼」について多面的に考えられるようにしていく。

そのために, 以下の点を工夫する。第一に, 導入では, はがきや手紙を投函する体験を想起させ, 本資料へのアプローチを図るようにする。第二に, 資料前半の場面絵やキーワードを黒板に提示することで状況把握を行い, それらを基にして, 広子が迷う場面について自分なりの解決方法とその理由を考える場を設定する。第三に, 「料金不足を伝えるべき」と「料金不足を伝えないべき」の各立場の理由を出し合い, 類似点と相違点を見出すようにする。それぞれの理由を比較することにより, どちらにも友達の思う気持ちがあることに気付かせるとともに, 正子がどのように考えるかを引き出すようにする。さらに, 可逆性, 普遍性, 互惠性の発問等で揺さぶることにより, 友達へ対する信頼について触れるようにしたい。第四に, 展開後段では, 手紙を書くシミュレーションを行い, 自分が考えた解決策を身近な問題としていくとともに, 価値の深化を図るようにする。

この学習をとおして, 児童自身が日常的に仲良しと感じている友達の気持ちを考え, 注意し合ったり, 違う意見を言ったりすることのできる信頼関係を築き, 友情を深めていこうとする心情を育てたい。

7 指導過程

	学習活動	主な発問と児童の心の動き (主な発問 (○), 中心発問 (◎) 予想される児童の反応 (・))	指導上の留意点 (○支援 ☆児童への評価の観点 ★指導者への評価の観点)
導入	1 学習内容に興味をもつ。	○手紙やはがきを書いたことがありますか。どんな気持ちで書きましたか。 ・元気にしているかな。 ・喜んでくれるかな。 ・～の気持ちを伝えたい。	○手紙やはがきを書いた時の気持ちを想起させ、資料への興味を高める。 ○展開前段のはがきを書いた正子の気持ちにつなげる。
展開前段	2 資料「大きな絵はがき」(前半)を読んで話し合う。 ・課題を設定する。	○広子はどんなことで悩んでいるのでしょうか。 ・料金不足を伝えるか、伝えないか。 ・事実を伝えたら嫌な思いをさせるのではないか。	○場面絵を提示することで、状況把握ができるようにする。 ○自分たちで資料を読んで課題を設定することで主体的な活動につなげる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 絵はがきをくれた正子に「料金不足を伝えるべき」か「料金不足を伝えるべきではない」か、どうしたらよいか考えよう。 </div> ・絵はがきをもらったときの広子の気持ちを考える。 ・自分が広子だったらどうするかを考える。	○なかよしの正子からの絵はがきを読んで、広子はどんな気持ちになったでしょう。 ・きれいだなあ。 ・うれしい。 ・正子さんに会いたくなった。 ◎あなたが広子ならどうしますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 料金不足を伝えない </div> ・正子に嫌われたくない。 ・美しい景色を見せようと思って送ってくれたのに、嫌な思いをさせたくない。 ・私が不足分を払えば、正子も嫌な思いをしなくてすむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 料金不足を伝える </div> ・間違っていることは教えてあげたい。友達だから、私の気持ちを分かってくれるはず。 ・同じことを繰り返して、正子が恥をかくのは嫌だ。 ・自分だったら教えてほしい。	○正子からの絵はがきを喜んでいる広子の気持ちに共感させる。 ○ワークシートに自分の考えを書かせ、意見交流をする。 ☆自分の考えを理由付けて書いているか。 ○理由を比較し、類似点として「正子のため」という思いがあることに気付く。 ★自発的に問題を考え、積極的に学習が行えるような配慮ができていたか。

展開前段	<p>深める発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が正子なら、そうしてほしいだろうか。 ○家族が同じことをしても料金不足を伝えないか。 ○正子がクラスの友達に同じ絵はがきを出したらどうだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○可逆性、普遍性、互惠性の発問等で揺さぶりながら、「きっと分かってくれるはず」という正子への信頼も解決策の一つとなるように促す。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・再度、自分なりの判断をする。 ○あなたが広子だったらどうしますか。 <p>(例)・友達を信頼して、本当のことを教えてあげたい。 ・恥ずかしい気持ちにさせたくないから、感謝の気持ちだけ伝えたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆友達のためにはどうすることがいいのか、考え判断することができたか。(発言・記述) 	
展開後段	<p>3 正子に手紙を書き、交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○広子になったつもりで、手紙を書きましょう。 ・正子さんなら分かってくれると思うので書きます。大きな絵はがきを送るときは、…。 ・正子さんからの絵はがき、とても嬉しかったです。会いたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「正子の気持ちを大切にしたい」「正子なら分かってくれる」「親友だから」等の相手のことを大切に思い、信頼しているものを紹介することで、価値の深化を図る。 ○ワークシートに、心の吹き出しも書くようにする。
終末	<p>4 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の授業の振り返りを書きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業を通して、今までの自分の考えと変わったこと、新たに分かったこと等をワークシートに書かせることで、次への意欲をもたせる。

8 板書計画

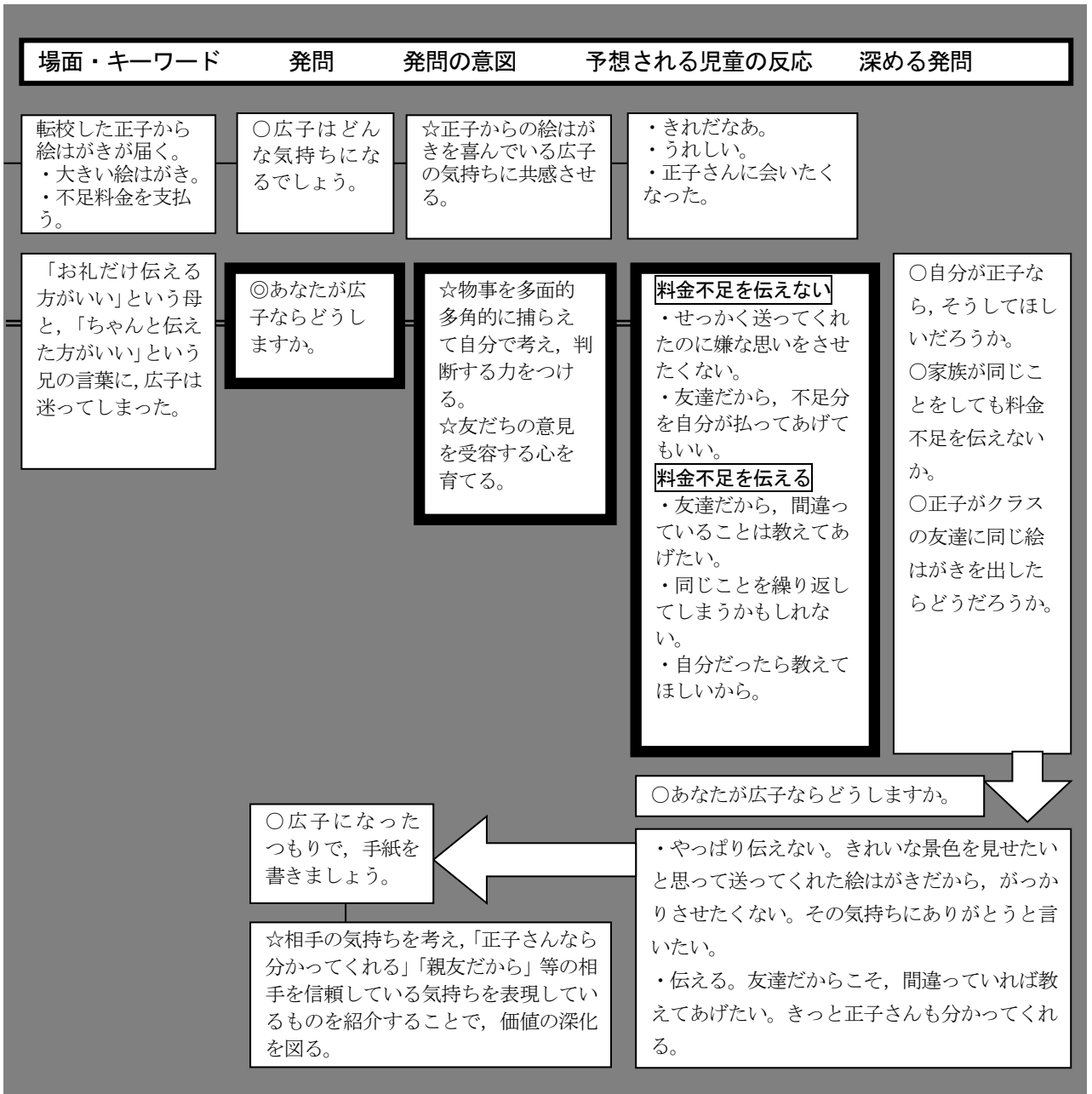
<p>考えたこと・思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらにも「友達のため」という思いがあるな。 ・信じあえる友達がいるっていいな。 	<p>料金不足を伝える</p>	<p>迷う</p>	<p>料金不足を伝えない</p>	<p>場面絵 絵はがきをもらって喜ぶ広子</p>	<p>大きな絵はがき</p> <p>絵はがきをくれた正子に「料金不足を伝えるべきか」「料金不足を伝えないべきか」を考えよう。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達だから間違っていたら教えてあげたい。 ・同じことを繰り返してしまうかもしれない。 ・自分だったら教えてほしい。 ・本当の友達だから、私の気持ちを分かってくれ 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいが、言い方が分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかくだら送ってくれたのに、いやな思いをさせたくない。 ・友達だから、不足分を自分からはらってあげてもいい。 ・わざわざではないから、言わなくていい。 	<p>きれいだなあ。</p> <p>うれしいなあ。</p> <p>正子さんに会いたいなあ。</p>	

資料選定

資料選定への思い

友達の気持ちを考えて悩む主人公の行動について「自分だったら」と考えることを通して、日常的に仲良しと感じている友達と、注意し合ったり、違う意見を言ったりすることのできる信頼関係を築き、友情を深めていこうとする心情を培うことができる。

資料分析・発問構成



主題 「本当の友達」

内容項目 2-(3) 友情, 信頼

本時のねらい

事実を友達に伝えるか伝えないかを考えることを通して、どちらの行動にも相手のことを大切に思う気持ちがあることに気付き、友達と互いに信頼し合い、ときには注意し合いながら、友情を深めようとする心情を培う。

10 資料「大きな絵はがき」(一部改作)

広子が、学校から帰って、楽しみにしていた本を読み始めようとしたときでした。げんかんの方から、「ゆうびんです。不足料金お願いできますか。」という声が聞こえてきました。

広子が出ていこうとすると、ちょうどそこへ、高校生の兄が帰ってきました。

「120円になりますので、68円不足です。」

ゆうびんはいたつのは、そう言って、兄に一まいの絵はがきをわたしました。兄は不足料金をはらって、受け取りました。

兄は、その絵はがきを広子にわたして、

「こんなに大きい絵はがきは、料金を調べて、きちんと切手をはらなければいけないだよ。その人は、広子の友達だろう。教えてあげたほうがいいよ。」

と言いました。

絵はがきは、3月のおわりに転校していった、なかよしの正子から来たもので、ふつうのはがきよりずっと大きい絵はがきでした。それには、山と海と空に囲まれた美しい宮島の大鳥居が写されていました。

あて名の下には、次のように書いてありました。

「広子さん、お元気ですか。わたしは、このあいだ、宮島に行ってきました。とてもきれいなけしきでした。

それで、絵はがきをお送りします。今年の夏休みには、いっしょに行きませんか。さようなら。」

正子は、ふつうのはがきと同じに考えたのでしょうか。左上には52円の切手はあってありました。

広子は、正子と一緒に宮島へ行ってみたいなあと思いました。さっそく返事を書こうと思いましたが、さっき兄の言ったことが気になってきました。

正子が、せっかく、きれいなけしきを見せたいと思って送ってくれたのに、切手が不足でしたなんて書きたくなかったのです。そんなことを書いたら、正子はきつといやな気持ちになる、と思ったのです。

母に相談してみました。母は、

「お礼だけ言っておいたほうがいいかもしれないね。」

と言ってくれました。兄が、そばで、

「いや、ちゃんと言ってあげたほうがいいよ。」

と言いました。

広子はまよってしまいました。部屋にもどって、どちらにしようかと考えました。